Newsletter　URL:www.savechildren.or.jp　0120-317-502

world's children

Save the Children JAPAN　発行元 社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町3-2-6 ストークビル8F　Phone:03.3516.8922

Autumn 2007 No.41

セーブ・ザ・チルドレン創始者エグランタイン・ジェブと Rewrite the Future～いっしょに描こう！ 子どもの未来

セーブ・ザ・チルドレンの活動には、その創始者エグランタインのこころざしが脈々と流れています。
ここでは、エグランタインが何を考え、何を示したのかを見つめ直し、その歴史的背景と思想を追ってみます。
そして、エグランタインという人物の考えがどのように「Rewrite the Future ～いっしょに描こう！子どもたちの未来」に投影され、
生かされているかをいっしょに考えていきたいと思います。

セーブ・ザ・チルドレンの誕生

第一次世界大戦直後の頃のこと。戦勝国イギリスにあって、敗戦国となったドイツやオーストリアに住む子どもたちの悲惨な現状を見聞きしたイギリスのリベラル派の人たちが、苦難にあえぐ子どもたちを何とか救おうと現地に赴き、子どもたちの現実を伝える活動が始まりました。

そして、子どもたちの現状を変えようと立ち上がったのが、エグランタインとその同志たちでした。国粋的な世風にあった当時のイギリスで、戦後も続いていたドイツ・オーストリアに対する経済封鎖解除を求める「飢餓との戦い委員会」を設立。次いで、「セーブ・ザ・チルドレン基金」を設立しました。これが1919年。セーブ・ザ・チルドレンの誕生です。

運動と共に広がるエグランタインの思想

イギリスに始まったセーブ・ザ・チルドレン運動は、瞬く間に世界に広がり、多くの国々でセーブ・ザ・チルドレンの名を持つ団体が誕生しました。1920年には、セーブ・ザ・チルドレン連合（ユニオン）がスイスのジュネーブで結成され、エグランタインは、その初代の代表にも選ばれました。

そして、子どもの生命を守り、明るい未来を築くために、彼女が国際社会に強く働きかけていた考えが、1924年「ジュネーブ子どもの権利宣言」の内容として国際連盟に採択されました。この宣言の重要性は、大人が持つ権利とは別に子どもには特別な保護が与えられるべきという点にあります。この中で述べられた事項は、1959年に国際連合で採択された「子どもの権利宣言」中に生かされています。当該宣言は、歴史上初めて子どもが人権の主体として認められた国際文書です。その後、さらに進化発展し、1989年に「子どもの権利条約」として結実しました。これは、世界で最も多くの国と地域が締約している国際条約です。

ジュネーブ子どもの権利宣言 → 子どもの権利宣言



ジュネーブ子どもの権利宣言

1. 子どもには、身体的、精神的に健全な発達をするための手段が提供されるべき
2. 空腹な子どもには食事を、病気の子どもへはその治療を、成長がゆっくりな子どもへはそのサポートを、非行の子どもには行動是正サポートを、そして、孤児や身寄りのない子どもへは家と救助を提供すべき
3. 紛争などの混乱状態にあっては、まず子どもが最優先に救済されるべき
4. 子どもが生活の糧を得られるようにしなければならない。しかし、すべての搾取から保護されなければならない。
5. 子どもは、人類へ貢献できるようその良心が育てられるべき

エグランタイン・ジェブってどんな人？

イギリスの名家に育ったものの、エグランタインは華美を好まず、子どもの頃の遊びはもっぱら外でというように、男勝りの性格であったと言われています。その一方、読書に没頭するなど、知識面においても貪欲な子どもでした。最初に選択した職業は教師でしたが、病気のためそれを断念することになります。その後、チャリティー組織での仕事に就き、その経験が後のセーブ・ザ・チルドレン設立へつながっていきました。

エグランタインの言葉

私たちは、子どもの権利に関して強く意識し、主張すべきです。そうすれば、慈善活動に貢献したいとする少数の人たちだけでなく、子どもとの接点を何らかの形で持っているすべての人々が、こうした私たちの活動へ共感し、参加することが可能になるでしょう。（エグランタイン・ジェブ　1923年）



セーブ・ザ・チルドレン創始者
エグランタイン・ジェブ（1876～1928年）

「Rewrite the Future ～いっしょに描こう！ 子どもの未来」にも脈々と受け継がれるエグランタインの思い

2006年にスタートしたこのプロジェクトの目標は、2010年までに紛争下で苦しむ300万人の子どもたちへ教育を提供すること、さらに500万人の子どもたちに適切な教育を提供することです。これは、国連ミレニアム開発目標の一つである「すべての子どもに教育を！」にも貢献する活動です。紛争下にあって、子どもたちが学校で安心して勉強ができ、暴力を絶対に許さないという教育が提供されるよう環境を整備することは、大変重要です。セーブ・ザ・チルドレンでは、子どもの目線に立った教育が提供されるよう行政、教師、地域住民と力を合わせて支援を展開しています。教育は、子どもを保護し、そして、子どもの健やかな成長をサポートし、良心を育てます。これこそが、まさにエグランタインが世に示したセーブ・ザ・チルドレンの考えなのです。エグランタインが、世界に初めて問うた「子どもの権利」を守るという思いは、一世紀近くを経た今も、セーブ・ザ・チルドレンのチャレンジの中でしっかりと引き継がれているのです。





DATAで見るSC
セーブ・ザ・チルドレン

ノーベル平和賞で話題のマイクロファイナンス SCJ支援地では約3万人の生活を変えています

現在、世界で10億人以上もの人々が、1日1ドル以下で生活していると言われています。そのうちのおよそ70%を女性と子どもが占めています。
セーブ・ザ・チルドレンでは、主に女性を対象としたマイクロファイナンスを資金面と物資面の両方から支援しています。
マイクロファイナンスによって、女性が貧困から自立の方向へ向かうことで、多くの子どもたちの生活が改善されています。

マイクロファイナンス
ー成功と維持のひみつー

マイクロクレジットがノーベル平和賞を受賞し、世界の注目を集めています。マイクロファイナンスの基本的なシステムと手法によって、貸し出す人々の生活を変えられることが証明されたのです。そのポイントをご紹介しながら、マイクロファイナンスの仕組みと、セーブ・ザ・チルドレンの活動内容をご紹介しましょう。

総合的アプローチ

単に融資を行うだけでなく、家庭の事情に合わせていろいろなアドバイスをしたり、仕事の技術やマーケティングのノウハウを提供したりしています。このように、女性をエンパワーメントすることによって、子どもの教育などを援助することにつながります。



SCJではこんな活動をしています…
基礎研修
貸し付けを受ける女性たちを対象に、まず貸し付け・貯蓄の概念について知ってもらうことから始めます。その他にも帳簿の付け方を指導するなど、研修や講義にも工夫を重ねています。



SCJではこんな活動をしています…
活動視察
事業を実施した村を訪問し、事業を実施する際の問題点を洗い出し、それに対する解決策について対策をねります。事業終了後の活動についてもサポートできる体制作りに向けて活動しています。

グループシステム

5人1組でグループを作り、グループごとに貸し付けを行い、互いのローンを保証し合うことで、担保がなくても貸し付けができるような金融システムを作り上げています。



VND=ベトナムドン（ベトナムの通貨）

SCJではこんな活動をしています…
原資提供
同じ集落の女性たち5人組で、メンバー全員が連帯責任で貸し付けを受けます。返済状況や互いの経済状況などを細かく報告し合い、互いに助け合うことで信頼できるネットワークを作ります。



回収のペース

グループごとに担当者をつけ、週1回から月1回のペースでの訪問を義務付けています。そのペースを保つことで、借り手との信頼関係を少しずつ築き上げていっています。



SCJではこんな活動をしています…
モニタリング
回収時に、家庭内の経済状況や家庭環境についてチェックをし、場合によっては担当者が相談にのりながら、適切なアドバイスを与えることで、返済を円滑に進めるようにします。



カインさんの場合

プロジェクト前の状況
収入●年収300万ドン（22500円）
仕事●稲作、養豚
問題●新婚のため低収入であること
娘の病気（栄養失調、呼吸器感染）
仕事のため子どもとの時間がとれないこと

プロジェクト後の状況
収入●年収1400万ドン（105000円）
仕事●小売事業（雑貨、果物、飲み物、ニョクマム）
成果●生活のためだけでなく、娯楽を楽しむ余裕ができた
子どものために時間をさけるようになった



① 1回目の融資 3750円（50万ドン）→ 家畜の飼育 → 小売店開業
500,000 VND

② 2回目のの融資 7500円（100万ドン）→ ニョクマム（魚醤）販売
1,000,000 VND

③ 3回目のの融資 11250円（150万ドン）→ 1500リットルのニョクマム販売
1,500,000 VND

プロジェクトに参加してみて
SCJのマイクロファイナンスプロジェクトは手続きもとても簡単なので、貧しい家族にも適していると思います。まだまだ貧しい家庭はたくさんあります。しかし、そのニーズに比べて資金が足りていないようです。マイクロファイナンスプロジェクトのためにさらなる資金提供があれば、もっとたくさんの女性と子どもが助けられるのにと思います。



基礎知識 ＊1円＝133ベトナムドン（2007年7月現在）

効果

マイクロファイナンスが子どもたちの生活環境にもたらしたものは？

貧困地域の女性が仕事を得ることによって、家計が改善され、子どもたちの教育や成長に使うための費用を確保できるようになりました。教育面だけでなく医療面からも子どもたちへのケアが格段に行き届くようになり、多くの子どもたちがマイクロファイナンスの力によって助けられているのです。



パートナーニュース
Partnership

企業とNGOの共同事業、ワールドワイドでの支援など、セーブ・ザ・チルドレンならではの企業とのパートナーシップを展開しています。

育てる！子どもと環境意識
●INAX



株式会社INAXにはベトナムイエンバイ省における環境教育事業にご支援をいただいています。ベトナムでは急速な近代化による環境悪化が懸念されています。SCJでは、子どもたちの自主的な話し合いや働きかけをもとに、子どもたちの身の回りの環境を実際に改善していこうという活動を行っています。そのために、環境に関する知識と、クラスのアイデアを引き出すための技術を持った人材を養成するための研修が行われています。INAXでは、環境に関する教材提供に加えて、現地法人VINAXのベトナム人スタッフがリソースパーソンとして参加しています。これらの取り組みは、企業とNGOがともに現場の状況に即した継続的な事業のあり方を考えるという新しい試みです。活動の成果は、来年5月にイエンバイ市にて行われる省レベルの政府職員を招いたフォーラムで発表されることになっています。それ以後も引き続き子どもたちが地域内での環境保全活動の担い手として活躍していくことが期待されています。

世界規模のパートナーシップ
●IKEA



オーストラリアでキャンペーンに使われたぬいぐるみ

IKEAとセーブ・ザ・チルドレンの関係は1993年、セーブ・ザ・チルドレンがIKEAの児童労働に対する行動規範の作成にアドバイザーとして関わったことから始まりました。IKEAは環境保護と並んで子どもの権利の擁護にも積極的に取り組んでおり、特に生産現場のサプライヤー（商品供給者）における児童労働の禁止に力を注いでいます。以来、IKEAとセーブ・ザ・チルドレンはグローバル・パートナーとしての関係を維持し、IKEAからはセーブ・ザ・チルドレンの様々な子ども支援活動に対し、長年にわたるサポートを受けています。現在、両者の協力は世界16カ国に広がり、セーブ・ザ・チルドレンにとっては最大の企業パートナーとなっています。

2005年からは「ソフトイキャンペーン」が実施され、クリスマスの時期に合わせ全世界のIKEA店舗でソフトイ（ぬいぐるみ）販売1個につき1ユーロが、世界の子どもたちの支援活動に寄付されています。2006年に店舗がオープンしたイケア・ジャパンでも、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンを寄付先として、2007年11月3日から12月24日の期間、同キャンペーンが実施されます。

Topics!

100万部突破！

ベストセラー「鏡の法則」著者 野口嘉則氏インタビュー



vol.38のTopicsで、ベストセラー「鏡の法則」の著者野口嘉則さんのご意向により、その売上の一部が、セーブ・ザ・チルドレンを通じて世界の子どもたちのために役立てられていることを紹介しました。前回に引き続き、よりくわしいお話を今回聴かせて頂きました。

Q. セーブ・ザ・チルドレンの「子どもの声を聴き、そこから学ぶ社会」というビジョンについてどう思われますか

A. このビジョンについては、「鏡の法則」で書いた「自分の声を聴く大切さ」に通じるものがあると思います。子どもの声を聴く姿勢を持つことは、子どものその後の人生を大きく左右すると思われます。よくありがちなのが子どもの声を聴かずに、親の価値観をそのまま押しつけてしまうことです。親の立場からすれば、自分のほうが人生経験も豊富だし、自分の価値観が正しいと思ってしまいがちです。ただ、子どもの人生を生きているのは子ども自身なのですから、もう少し子どもに自身の意志で選択できるようなゆとりを与えてあげることも大切なのではないでしょうか。

Q.「鏡の法則」を通して、子どもたちに一番伝えたいことは？

A. 子どもにとってはとても難しいことかもしれないけれど、親に愛されているということに気づいてほしいです。虐待といったような問題もあるので、すべての子どもがそうであるとは限らないかもしれませんが…。日本には昔から親孝行などの慣習がありますが、そういったものを大切に守り、受け継いでいってほしいと思います。





チャイルド・リンクは地域を選んで子どもたちを支援する継続サポートです

チャイルド・リンクは、アジア、アフリカ、ラテンアメリカから支援したい地域を選んでいただけます。チャイルド・リンクにご参加いただきますと、「代表の子ども」からのメッセージが入った定期レポート（年2回）とグリーティングカード（年1回）が届きます。代表の子どもの成長を通じて、支援を実感いただけます。

（月々3,500円～）

SCサポートは世界中の子どもたちを支援する継続サポートです

ＳＣサポートは、セーブ・ザ・チルドレンの活動全体をサポートしていただくプログラムです。地域や事業を問わないので、いただいたご寄付はその時々に応じて必要な場所で必要な事業に活かされます。ＳＣサポートにご参加いただきますと、セーブ・ザ・チルドレンの活動内容がわかる定期レポート（年2回）とグリーティングカード（年1回）をお届けします。

（月々1,500円～）

一般寄付　ご寄付は、随時受け付けております。振込手数料免除の右記口座をご利用ください。

振込先：郵便振替口座00900-1-120760
加入者名：セーブ・ザ・チルドレン子ども基金

Save the Children JAPAN

詳しくは下記のフリーダイヤルかウェブサイトでお問い合わせください。
0120-317-502（平日9:30～18:00）
URL:www.savechildren.or.jp

※税控除について
当団体へのご寄付は、一定の要件の下に法人税及び所得税の控除対象となります。また、遺贈及び相続財産のご寄付については、相続税控除の対象になります。詳しくは事務局までご相談ください。

From SCJ



三木 照（みき ひかる）
京都大学大学院農学部卒業。
アメリカにて公衆衛生学修士号取得。
2002年5月からセーブ・ザ・チルドレンに勤務。
現在、海外事業部ベトナム事務所代表を務める。

ベトナムレポート



ベトナム駐在員の三木スタッフから、現地での活動状況とマイクロファイナンスのプロジェクト経過報告についてのレポートが届きました。

ベトナムでの生活について

平日はハノイ市内のSCJの事務所で働いています。SCJの事業地であるイエンバイ省は、ハノイから車で4時間程かかるので、月に2～3回出張します。休みの日は、市場に出かけたり、お店をまわったりしています。日本製品が日本より安く売っていることもあって驚かされます。普段はベトナムでの一般的な家庭料理を食べていますが、ベトナムの都市部では日本食のお店も結構あるので、ときどき食べに行きます。

SCJの活動について現地の人の反応は？

最初はNGOの活動経験の全くない場所で始めることが多いので、地元の人が互いに協力して会議を開くことさえ難しい場合もあり、研修をしても厳しすぎてついてこられず、泣いてしまう女性もいます。しかし、1年後には村の人が自ら活動の結果を読み上げ、最も活躍した女性を紹介したりするなどの変化が見られるようになりました。

ベトナムで広がる国際交流の輪

世界銀行（日本社会開発基金）の支援をえて、ベトナム教育訓練省と共同で行っている事業の関係で、以前より他国セーブ・ザ・チルドレンメンバーとの協力体制が深まり、交流も盛んに行われるようになりました。先日、スウェーデン大使がセーブ・ザ・チルドレンのために開いた晩餐に行ってきたのですが、なんとスウェーデン大使夫人がセーブ・ザ・チルドレンの職員であると知り、スウェーデンにおけるNGOのポジションの高さに驚かされました。

ベトナムの人々に徐々に受け入れられてきた

マイクロファイナンス

マイクロファイナンス事業を始めたのが、2000年で、現時点で利用している人は6,500名ほどで、2007年7月までの累計で3万人となっています。やはり最初はお金を借りるのは怖いと思う人が多いようです。事業を始めて1年目は借り手が少なく、2年目から周囲の評判を聞きつけた人からの依頼が多くなってきました。

マイクロファイナンスの回収率の高さについて

マイクロファイナンスが融資の対象を女性としているのは、女性をサポートすることが子どもたちを助けることにつながるからです。また、同じ集落の女性たち5人組で励まし合うネットワーク作りを行っているということがマイクロファイナンスの強みであるとともに、回収率の高さにつながっていると思います。1グループに1人の担当者がついていて、返済できない場合はお互いの助け合いに加え、家計のやりくり資金運用について細かくアドバイスをしています。

マイクロファイナンスに取り組むことによる変化

貧困家庭の女性が家計を改善し、子どもたちの養育や教育に使うための費用を手に入れることができるようになったという個人レベルの変化に加えて、事業全体として返済の利子を子どもの栄養関連の活動費に充てていくということができるようになりました。これまでの約2,150万円の原資提供に貯蓄の利子が加わり活動資金総額が約3,720万円にまで膨らんでいます。